

# 平成 31 年度（令和元年度） 全国学力・学習状況調査の結果について

令和元年 9 月 6 日  
枚方市立山田中学校

文部科学省が今年 4 月に実施した、平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、生徒の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

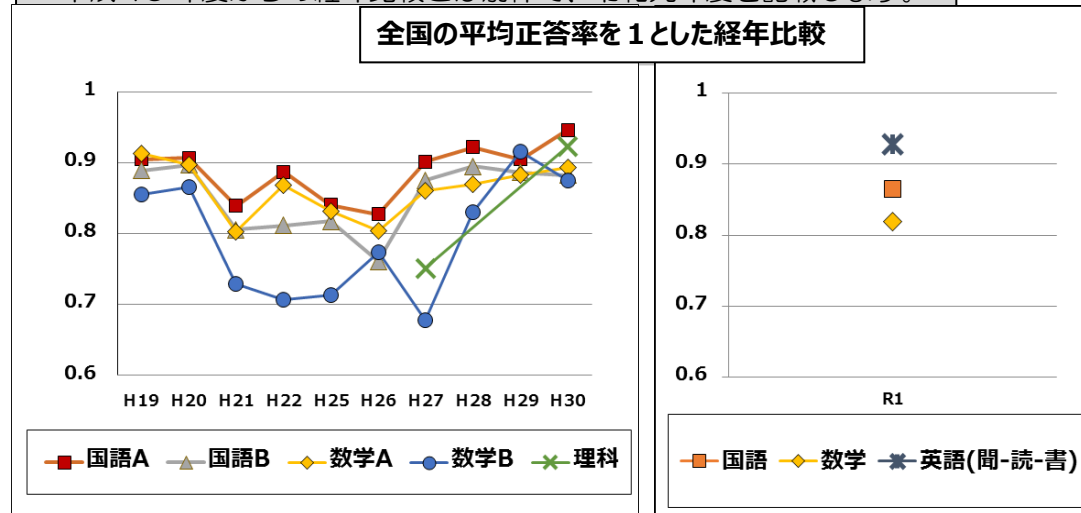
## 【全体概要】

※調査結果について  
教科や出題範囲が限られていることから、  
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。

### 学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較（対全国比）をお知らせします。  
（※今年度より、A・B問題が一体化されましたので、グラフを分けています。）

平成 19 年度からの経年比較とは別枠で、令和元年度を記載します。



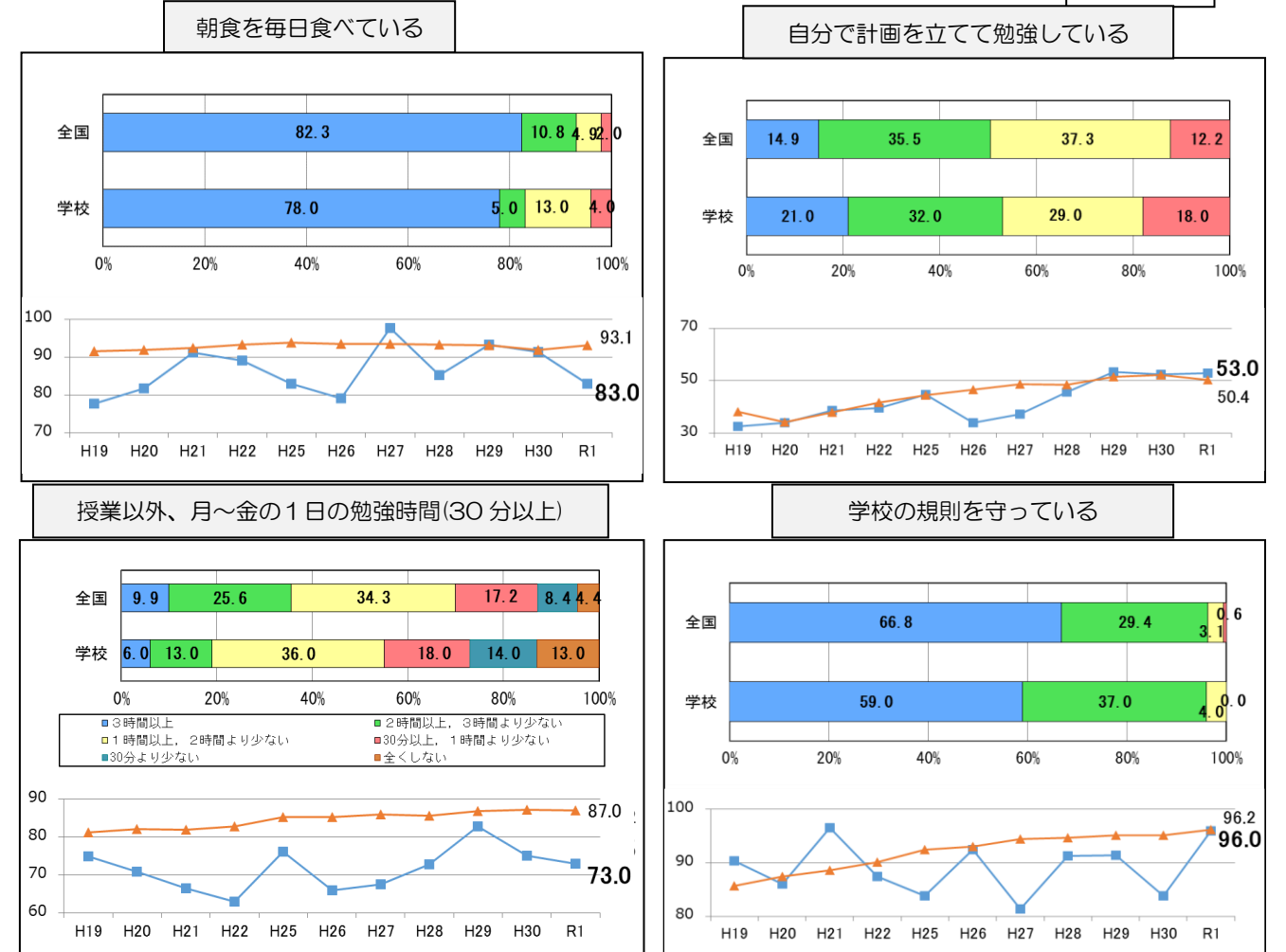
対全国比 (全国を 1)	
国語	0.87
数学	0.82
英語 (聞-読-書)	0.93

## 質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「あてはまらない」を示しています。  
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。  
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は 100 にならない場合があります。

質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。

▲ 全国  
■ 本校



### <質問紙調査結果の概要>

家庭での生活習慣は全国や府と比較し、肯定的回答割合がほぼ遜色ない数値となっている。学校での生活習慣は「学校に行くのは楽しい」など、多くの項目で府や全国を上回っている。学習習慣や意識は全体的に府や国を下回っている。ただ英語に関しては上回っている項目が多かった。いじめ等の規範意識に係る項目も良い結果が多く見られ、さらに自己における将来への夢や挑戦する姿勢等の項目に特に高いものがあった。地域や人の役に立ちたい等の項目において肯定的回答が高かったことは、本校の目指す教育にもつながっており、評価している。

### まとめ

現在の学校生活上の落ち着きが質問紙の調査結果にも表れている。特にいじめに対する意識は高くなっている。また「人の役に立ちたい」「将来の夢」等の項目が高い数値を示しており、ここ数年間は自己肯定感も一定高い水準で推移している。さらに授業改善によりグループ活動を中心にした主体的な学習活動により、発表の工夫や話し合い等による考えの深化に進展が見られた。反面、家庭学習の時間が目立って少なく、学習の定着が図られていないことが各教科の正答率からも伺える。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

### <学力調査結果の概要>

- 国語について  
→平均正答率は、府・国を下回っています。特に「話すこと・聞くこと」「国語の特質に関すること」の課題が大きく、「読むこと」の分野にも一定の課題が見受けられます。
- 数学について  
→平均正答率は、府・国を下回っています。特に「関数」の領域の課題が大きく、「資料の活用」や「図形」の領域の課題にも大きなものがあります。「数と式」は比較的できていました。
- 英語について  
→平均正答率は、府・国を少し下回っています。「聞くこと」の領域では府の平均を上回っていましたが、「読むこと」「書くこと」の領域では、ほとんどの問題で府・国の平均を下回っていました。

※本調査は、平成 19 年度から実施されています。

※平成 23 年度は中止(東日本大震災)、平成 24 年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。

※英語の「話すこと」調査は、全国で実施していない自治体がある等、【参考値】として公表されることから、対全国比は掲載していません。

# 【詳細について】

## 教科に関する調査

<国語>

成果や課題があった設問

【成果】

問題の概要（見出し）	
<p>新しいノート教科書取り出して背筋伸ばして始まりを待つ                  玄関の鏡の前でもう一度前髪笑顔ボタン笑顔と                  春風がいつもの道を駆け抜ける皆の足取り自然と軽く</p> <p>中一 内山 誠一                  中二 森川 りか                  中三 松田 花子</p>	<p>4 問題用紙Ⅱの【全国中学生新聞】を読んで、あとの問いに答えなさい。</p> <p>三 「みんなの短歌」に掲載されている内山さんの短歌、森川さんの短歌、松田さんの短歌の中から一首を選び（どの短歌を選んでもかまいません。）、その短歌を読んであなたが感じたことや考えたことを、【選者より】を参考にしながら、次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。</p> <p>なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。</p> <p>条件1 選んだ短歌の中の言葉を取り上げて、想像できる情景や心情を書くこと。</p> <p>条件2 条件1で想像した内容について、あなたが感じたことや考えたことを具体的に書くこと。</p>

【課題】

問題の概要（見出し）	
<p>倉田さん                  西野さん                  山下さんも気になっていたんですね。それに、例年、展示や発表の場所が校内に点在しているので、見て回る経路の例を示した紙を配るとよいと思います。</p> <p>賛成です。展示や発表の場所は美術室や体育館など校内のあちこちにあるので、長い距離を移動することに負担を感じる方がいると思います。具体的な経路の例は、展示や発表の場所が決まってから検討しましょう。それでは、今日の話し合いはここまでです。</p>	<p>2 第一中学校の生徒会役員の山下さんたちは、「地域とのつながりを大切にした文化祭にするために」という議題で話し合っています。次は、【話し合いの一部】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。</p> <p>二 場面3の線部「賛成です。展示や発表の場所は美術室や体育館など校内のあちこちにあるので、長い距離を移動することに負担を感じる方がいると思います。」という倉田さんの発言について説明したものと最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。</p> <p>1 場面3における西野さんの発言の一部を具体的に言い換えて確認しながら、自分の考えを示している。</p> <p>2 場面3における西野さんの発言の一部を取り上げ、様々な考えを出し合うように周囲に促している。</p> <p>3 場面3における西野さんの発言の要旨をまとめながら、話し合いを通して導かれた結論を述べている。</p> <p>4 場面3における西野さんの発言と他の人の発言との相違点を示し、議論の要点を確認している。</p>

	正答率	無解答率
本校	88.7	1.0
全国	91.2	1.7

（考察）  
 短歌を選び、自らの考えや感じたことを「書く」領域の設問であった。無回答率の低さは評価できるし、正答率も全国平均に及ばないものの、府平均は上回っていた。日頃から継続して取り組んでいる読書タイムやコラムの書き写し等の成果と考えられる。また、授業において同様の活動を行っていたこともいい結果につながっていると考えられる。今後も自分で考え表現する能力の育成を意識していくことが必要である。

	正答率	無解答率
本校	57.7	0.0
全国	69.7	0.3

（考察）  
 本文の内容を正確に読み取り、設問に対して整理することが求められる内容であった。本校の学習規律の核になっているグループ学習について、大きな成果を挙げている一方、個別に資料や本文を読み取る能力が不足していることがわかる。これは本テスト以外の結果を見ても明らかな点である。今後入試対策も含め、様々な文章に触れ、深く丁寧に読み進めていくよう留意したい。また朝の読書活動についても継続していきたい。

<数学>

成果や課題があった設問

【成果】

問題の概要（見出し）	
<p>8 図書委員会では、生徒の読書活動の状況を調べ、図書だよりにまとめようと考えています。そこで、図書委員の航平さんと桃子さんは、全校生徒270人を対象に、最近1か月間に読んだ本の冊数と、1日あたりの読書時間が何分であるかを回答するアンケートを実施しました。</p> <p>アンケートのお願い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最近1か月間で読んだ本は何冊ですか。（      冊）</li> <li>・1日あたりの読書時間は何分ですか。（      分）</li> </ul> <p>次の（1）から（3）までの各問いに答えなさい。</p> <p>（3）二人は、月曜日から金曜日までの平日と、土曜日と日曜日の休日では、1日あたりの読書時間に違いがあるのではないかと考えました。そこで、全校生徒を対象に、平日1日あたりの読書時間と休日1日あたりの読書時間を調べるアンケートを改めて実施し、270人の生徒が回答しました。そして、集計した結果をまとめ、次のような図書だよりの下書きを作成しています。</p> <p>図書だよりの下書き                  （下書きのグラフ等省略）</p> <p>前ページの図書だよりの下書きには、わかったこととして次のことが書かれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平日は、270人の半数以上の生徒の読書時間が20分以上です。</li> <li>○ 休日は、270人の半数以上の生徒の読書時間が0分です。</li> </ul> <p>このことは、図書だよりの下書きにある平日1日あたりの読書時間と休日1日あたりの読書時間の、ある値に着目することでわかります。その値が、下のアからオまでの中にあります。それを1つ選びなさい。</p> <p>ア 平均値    イ 中央値    ウ 最頻値    エ 最大値    オ 最小値</p>	<p>（考察）                  図書だよりの下書きに書かれているわかったことの根拠となる値として適切なものを選ぶ問題であった。無回答率は0%であり、自分で答えを導き出そうとする力は評価ができる。全国平均は下回っているが、大阪府平均を上回っていることから、普段の授業で復習問題を行いながら進めている効果が出ているのではないかと考えられる。今後も、単元のみでの授業ではなく、数学全体を見通した授業を行うよう心がけたい。</p>

【課題】

問題の概要（見出し）																					
<p>4 下の表は、<math>y</math> が <math>x</math> に反比例する関係を表したものです。<math>y</math> を <math>x</math> の式で表しなさい。</p> <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <tr> <td><math>x</math></td> <td>...</td> <td>-3</td> <td>-2</td> <td>-1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>...</td> </tr> <tr> <td><math>y</math></td> <td>...</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>6</td> <td></td> <td>-6</td> <td>-3</td> <td>-2</td> <td>...</td> </tr> </table>	$x$	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...	$y$	...	2	3	6		-6	-3	-2	...	<p>（考察）                  反比例の表から式を求める問題であった。正答率が低だけでなく、無回答率が高くなっているのも課題である。本テスト以外でも関数の問題に苦手意識があることが分かっており、無回答率が高くなったことに繋がったと考察できる。また、解答類型の分析から1次関数の式で解答している生徒が多いことが分かり、比例、反比例と1次関数の区別ができていないと考えられる。表を見て1次関数と考えた生徒も多数いるので問題文の見落としも原因の1つと考察する。</p>
$x$	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...												
$y$	...	2	3	6		-6	-3	-2	...												

	正答率	無解答率
本校	51.5	0.0
全国	53.6	1.0

（考察）  
 図書だよりの下書きに書かれているわかったことの根拠となる値として適切なものを選ぶ問題であった。無回答率は0%であり、自分で答えを導き出そうとする力は評価ができる。全国平均は下回っているが、大阪府平均を上回っていることから、普段の授業で復習問題を行いながら進めている効果が出ているのではないかと考えられる。今後も、単元のみでの授業ではなく、数学全体を見通した授業を行うよう心がけたい。

	正答率	無解答率
本校	21.6	16.5
全国	48.9	10.4

（考察）  
 反比例の表から式を求める問題であった。正答率が低だけでなく、無回答率が高くなっているのも課題である。本テスト以外でも関数の問題に苦手意識があることが分かっており、無回答率が高くなったことに繋がったと考察できる。また、解答類型の分析から1次関数の式で解答している生徒が多いことが分かり、比例、反比例と1次関数の区別ができていないと考えられる。表を見て1次関数と考えた生徒も多数いるので問題文の見落としも原因の1つと考察する。

<英語>

成果や課題があった設問

【成果】

問題の概要（見出し）

1 (放送問題)

話される英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を、それぞれ1から4までの中から1つ選びなさい。  
(3) <外国人の先生と女子生徒の会話>

	正答率	無解答率
本校	80.4	0.0
全国	72.3	0.2

(考察)

本問題だけでなく、英語を聞いて答える問題は全体的に正答率が高かった。授業の中にリスニングの課題を多く取り入れていることや、互いに相手の意見や考えを英語で聞くことが積み重なって力になっていると考えられる。授業内の指示や設問もできる限り英語を使い、内容を捉える練習につなげていく。

【課題】

問題の概要（見出し）

9 (3) 次の表の①から③は、ある女性に関する現在の情報を示しています。これらの情報を用いて、彼女について説明する英文をそれぞれ書きなさい。

①	出身	Australia
②	住んでいる都市	Roma
③	ペット(Pet)の有(○)無(×)	

※下の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

①

②

③

	正答率	無解答率
本校	37.1	11.3
全国	52.5	6.4

(考察)

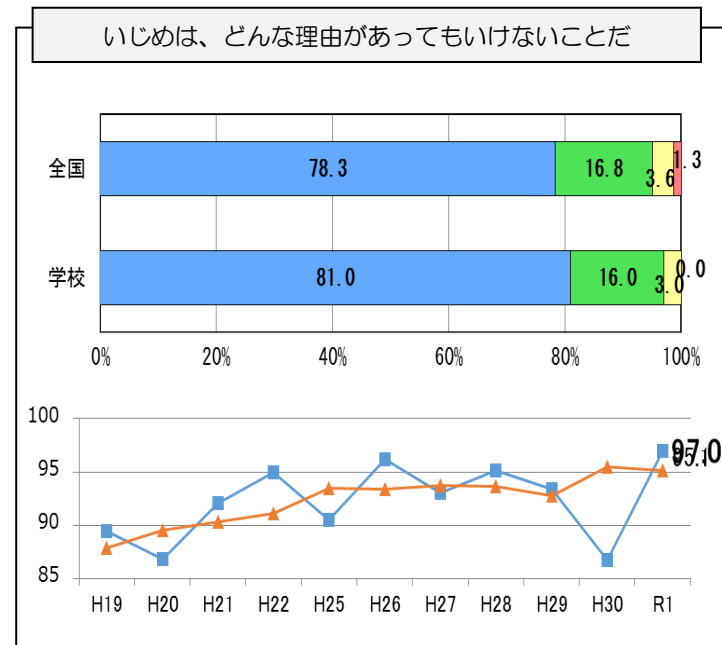
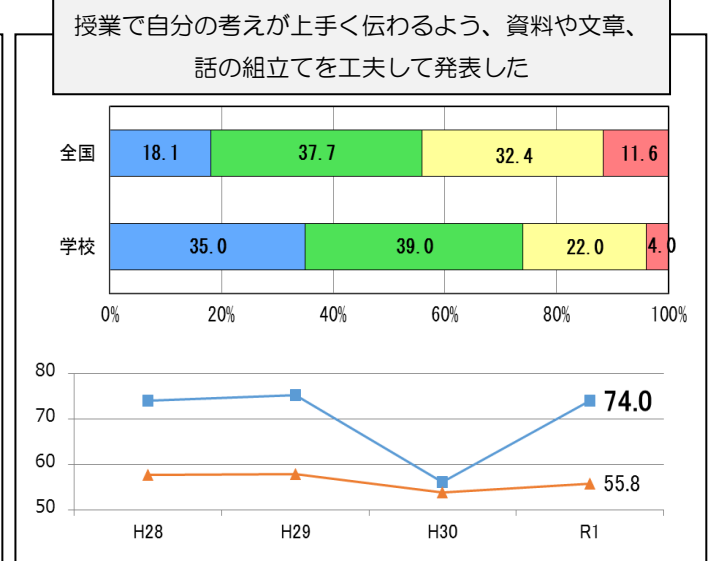
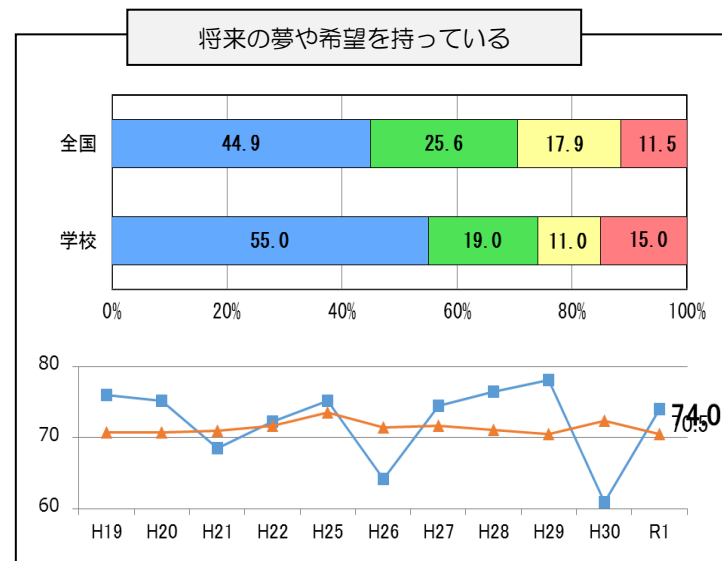
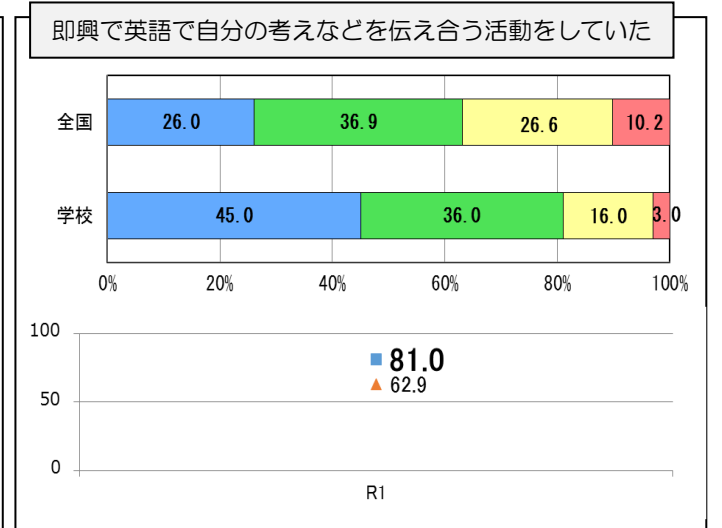
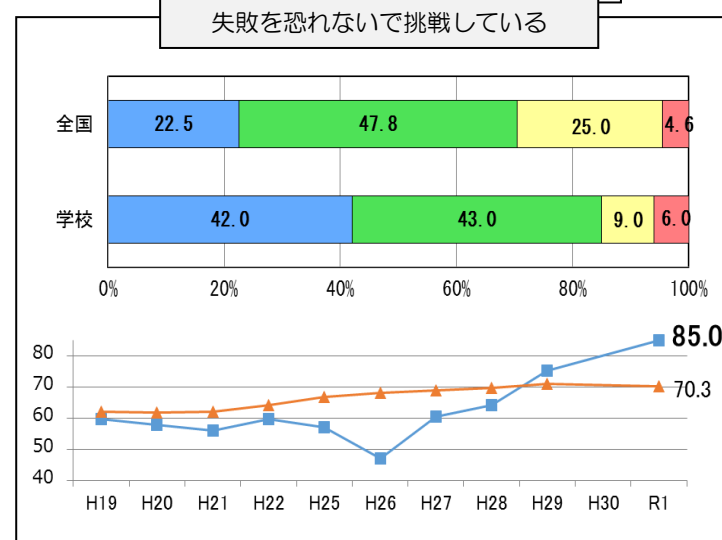
与えられた情報に基づいて、説明を英語で書く問題では、誤った文型を用いて解答していたり、動詞の形が誤っているものが多く見られた。基本的な文型問題(1, 2年の課題)の定着が必要だと思われる。授業の中で復習問題を多く取り上げることや、既習の文型を使って沢山英文を書いていくことが必要となってくる。創作的な活動や発表などの表現活動だけではなく、基本的な文型問題やドリルなども平行して取り組んでいく。

質問紙に関する調査

【成果のあった項目】

▲ 全国  
■ 本校

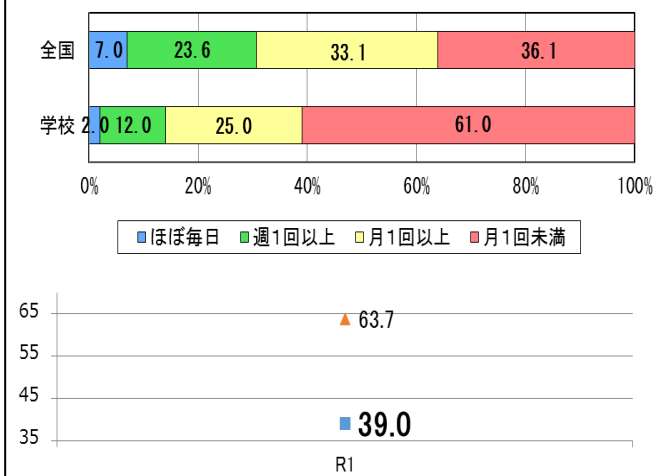
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「あてはまらない」を示しています。  
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。  
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。



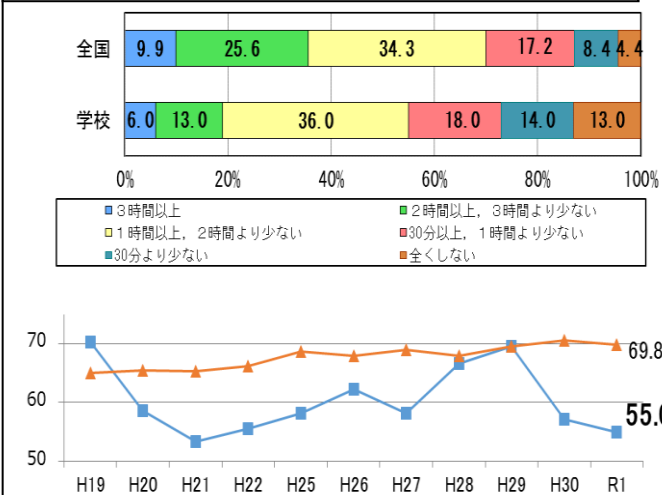
(考察)  
学習に係る項目では、英語科に対する関心意欲が高く、英語に関するほとんどの項目で高い数値が出ていた。また、すべての教科でグループ活動を中心とした生徒を主体とした学習形態により、生徒同士の会話による思考の拡がりや深化、発表等の工夫など、自分で考えるという基本が少しずつではあるが築かれてきていると考えられる。  
生活面では、生き方の基本として、将来に対して夢や希望を持ち、失敗を恐れることなく挑戦する姿勢を持ち、人の役に立ちたいという数値も高く、いじめ等をはじめ、他人に対する思いやりの気持ちも高く、大変良い状況にあると考えている。グラフにはないが「学校に行くのが楽しい」の値は全国よりも4ポイント高い86%であった。

【課題が残った項目】

1・2年生のときの授業で、どのくらいICTを使用したか



授業時間以外、普段(月～金)1日の学習時間(1h以上)



分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

ICTの使用についての課題が鮮明になった。ICTの活用については、PC教室での活動のみと捉えている生徒もあると思われるが、授業の導入や様々な提示等における使用も若干少ないことも事実としてある。今後は校内研修にも取入れ、特定の教科や教員に偏ることなく、すべての教職員が普通に授業でICTを活用し、生徒の興味関心を高め、授業の学習効果の向上を図っていきます。また今年度中にタブレットが導入されることから、効果的・効率的に活用で活用できるよう、授業研究を含めて行ってまいります。

授業については、Hirakata 授業スタンダードに基づいて、令和3年度からの新学習指導要領も踏まえ、「生徒主体の授業づくり」をさらに進展させていきます。そのために全教員が学期に1回の授業研究を行い、特にグループ学習を学習活動の中心に据えることにより、一人ひとりの生徒の学習ニーズを教員が上手く捉え支援していきける体制づくりを、校内研修や先進校視察等を実施することにより推進してまいります。

なお、グループ学習によるこれまでの取組については、その効果(主体的に取組む・対話的・深い学び等)が学力学習状況調査の質問事項の次の項目で表れてきていると考えています。

(数字は、肯定的回答の%)

質問項目	本校	府	国
生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。	80	67.5	72.8
自分で課題を立て情報を集め整理し、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。	74	49.9	61.5
学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか。	75	63	71.6
学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか。	76	58.4	65.6
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。	83	70.9	74.8
自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。	75	53.5	55.8
自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか。	88	70	76.6

上記の結果のように、「主体的に考える・取組む」という姿勢を育てることは、実生活や今後の社会生活、そして現在の学習活動においても、その効果が高いと考えられることから、グループ活動をさらに進展させる研究(校内研修)を進め、授業改善を行ってまいります。

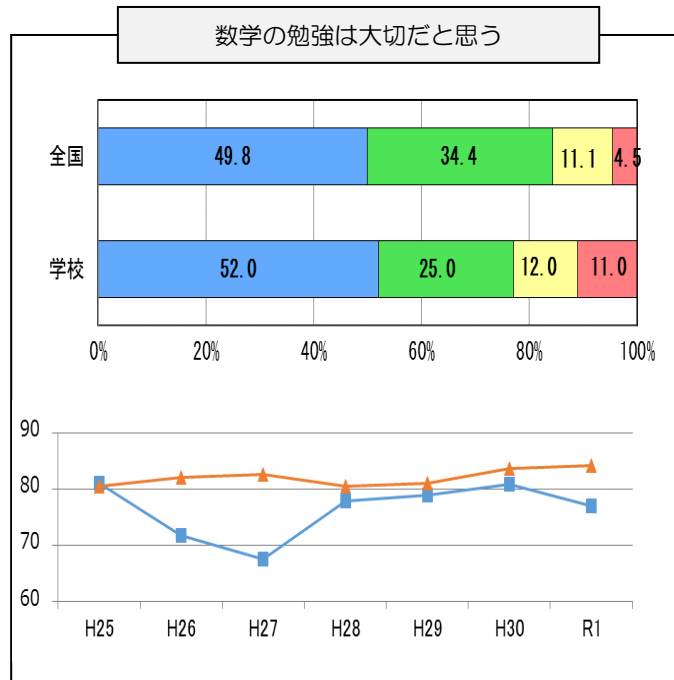
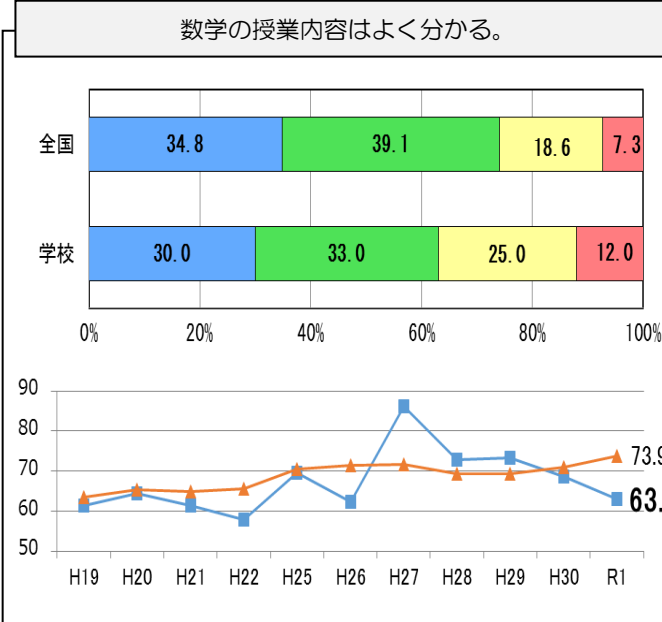
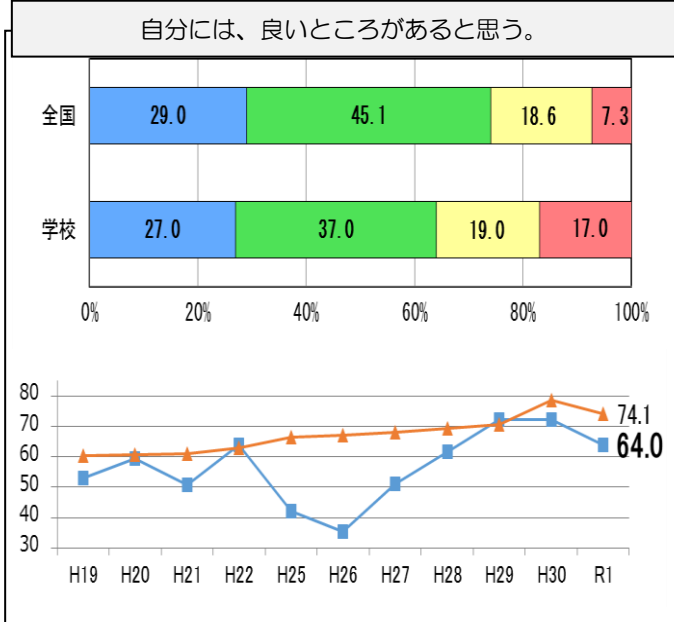
さらに、学習低位層の生徒に対しては、グループ学習における教師の状況把握と支援を充実させるとともに、懇談や生徒相談等を通じて生徒本人の学習意欲の向上を図るとともに、放課後等の自学自習室を活用した指導を充実させて参ります。

(2) 学習規律について

一定落ち着いた学校生活の中で、学習規律もきちっと守られた中で授業が行われています。この状態を維持し更なる進展につなげるために、小学校との連携した取組を一層進めていきます。また授業開始前の音楽放送によりほとんどの生徒においてチャイム前着席ができているので、それを100%に高め、授業のチャイムと同時開始を徹底するとともに、継続して実施している授業前後及び授業中の見回りも教職員の減員のなかではあるが、確実に実施できるよう努めます。

(3) 家庭学習について

家庭学習の取組については、1日1時間以上の学習時間を確保している生徒が55%と約半数の生徒しか取組んでいない。また13%の生徒が全く家庭学習をしていないというアンケート結果である。本校では、家庭学習の手引きを配布し、学級や教科担任からも家庭学習についての指導を行っているが、昨年度に引き続き今年度も低い数値が続いてしまっている。家庭との連携をさらに図りながら、授業における宿題や課題等を計画的に出すとともに、小学校で行っている自学自習ノートの中学校での継続した取組等を進め、自学自習力を向上させるとともに、家庭学習による学習内容の定着率を向上させていきます。



(考察)  
ICTの活用について課題がある。現在プロジェクターは数台あるが、PC教室での取組だけでなく普通教室での活用が簡単に出来るようにスクリーン等を増やし、普通教室での利用度を向上させることとともに、今年度中に配備される予定のタブレットについても活用の度合いを高くし、生徒の興味関心を高める授業展開が出来るようにしていく。家庭学習については1時間以上の学習時間を確保している生徒が少ない。家庭学習の手引きによる指導だけでなく、家庭との連携や小学校との連携した取組をさらに進めたい。また数学の授業内容が分かるという生徒の率も低いことから、数学の授業改善も当然であるが、まず教科としての数学の大切さを理解させ、数学に対する学習意欲を高めることから改善を試みる。「自分には良いところがある」の項目の自己肯定感が下降傾向にあるので、今後、地域行事等の取組みも含め対応を進める。